



第14回 遠軽IC道の駅検討協議会 議事概要

平成30年3月27日(火) 午後1:30

遠軽町役場 3階 大会議室

1. 開会

● 佐々木町長 挨拶

- ・年度末のお忙しい中、お集まりいただき感謝申し上げます。今回、実施設計図についてはほぼ最終版となり、道の駅の名称の募集や管理運営指針についてが中心となる。特に管理運営指針は、ランニングコストなど大事な部分であり、皆様には運営に向けて協議いただきたい。
- ・高規格道路旭川・紋別自動車道遠軽ICについても、先般、国土交通省に早期の開通をお願いしてきたところである。
- ・現在、石北線についても大きな問題となっており、町としても具体的な案を提示していきたい。交通網の整備が北海道の発展において大きなウェイトを占める部分でもあり、高規格道路の延伸はこの地域だけでなく、北海道全体が注目している。
- ・道の駅がずっと持続していける管理を目指して、皆様には検討いただきたい。

● 座長代理 渡邊博行委員 挨拶

- ・今回は遠藤座長が都合により欠席されるため、代わって進行を務めさせていただく。
- ・佐藤駅長候補者が就任されてから5か月が経過し、遠軽町の雰囲気もわかっていただけたと思う。4月からは本格的に着工に向けて動き出すこととなり、会議の議事を進めるだけでなく、色々な局面から自分たちの組織の中で何ができるのかを考えながら、進めていかなければならない。
- ・ちょっとしたことが人を呼び込む要素となる。色々なことを提案して道の駅が発展することをイメージしながら進めていきたい。
- ・新商品の開発についても、オホーツクの玄関口の道の駅として、町を挙げてやっていかなければならない。

2. 話題

(1) 議題

● 遠軽町行政評価町民アンケート調査結果報告について【資料1】

(事務局説明)

- ・町が行っている様々な行政サービスに対して、町民の皆様による評価をいただき、今後の町政運営に反映していくため、毎年実施しているものであり、その調査表に記載されていた様々な意見のうち、道の駅や高規格道路に関するものを抜粋して、作成した資料となっている。
- ・様々なイベントや体験プログラム、飲食・物販・直売などにおいて新たな施設に期待するものから、建設自体否定するような意見も含めて賛否両論あるが、シンプルな期待感や早くできることを願う意見をはじめ、具体的な提案を含めた意見、町に対する指摘を交えながらも良い施設にしてほしいという希望のある意見も多数あった。



- ・ 今回のアンケートで集まったこれらの意見については、全てを反映することはできないが、現在、事務局で描いている構想の範囲においてカバーできている部分も数多くあり、「遠軽の魅力を広く発信してほしい」「アスレチックがほしい」「リフトを利用した体験」「子どもが安心して楽しめる施設」などの意見もあることから、自信を持って進めていける一つの要素になるのではないかと。
- ・ 全体の報告書については、別途、町のHPや広報等で公表する予定である。

(座長代理)

- ・ 17番の意見では町政の指導力や情報公開についてあるが、このような会議などを通して報告しているながらも、やはり一町民としてはこういった捉え方の人も多いということである。そういう意見も含めてアンケートを読んでいただきたい。

● 遠軽IC道の駅を考える会の経過について【資料2】

(事務局説明)

- ・ 前回、平成29年12月6日に開催した第13回検討協議会以降の考える会の経過について報告し、検討協議会で内容を確認いただいた中で、引き続き協議を進めていくもの。
- ・ (1) 産業・食部会については、基本構想や出店・出品にあたっての基本ルールの再検討版、部会は今回で一区切りとし生産者等と個別に協議した中で平成30年度中に経過報告という形で部会を開催することについて承認を得た。
- ・ (2) 体験部会については、こちらも基本構想をはじめとして、リフトの更新を含めたスキー場の再開発、各種体験プログラム、部会は今回で一区切りとし、設計委託や試験・調整など、実施に向けて駅長候補者を中心に事務局が進める中で設計委託の成果や詳細な方針が形になった段階で、平成30年度中に経過報告という形で部会を開催することについて承認を得た。
- ・ (3) 情報発信部会については、情報発信の基本方針や基本情報及びリアルタイムの情報発信、道の駅名称及びロゴマークの募集・選考、それから防災の考え方について承認を得たところであり、道の駅の名称の募集選考については、後ほど資料5で説明する。
- ・ 資料の2枚目以降は、部会で提案した中でメンバーの皆様に承認いただいた資料であり、佐藤駅長候補者より概略を説明させていただく。

(駅長候補者)

- ・ 遠軽IC道の駅の事業計画を立案するにあたって、念頭に置いたことは、「お越しいただく方の道の駅」「町民のための道の駅」「働く従業員のための道の駅」であることが何より重要であると考えている。そして、「道の駅に関わる全ての方が笑顔になれる道の駅」でなければならない。
- ・ 全国では2番目、道内では初のスキー場を併設した道の駅であり、その利点を活かし、来場動機を持ってお越しいただくお客様を集客しなければならない。
- ・ スキーのオンシーズンは約4か月間であり、オフシーズンの8か月間が鍵を握る部分として、ゲレンデを利用したアクティビティなどを検討している。スキー場を1つのステージとして捉え、また、1つのテーマパークとして考えている。そこに魅力を持たせて、立ち寄りの場所ではなく最終目的地と



しての集客を取るべきと考える。

- ・当面は旭川・紋別自動車道の最終ICとなるが、瀬戸瀬ICが開通した際に道の駅まるせつぷの入込人数が激減したということもあり、いずれ延伸された時に一般の立ち寄り客を主体とした集客では、間違いなく半減してしまうと思う。
- ・前職では全国各地で農業公園を展開してきたが、オープンから10年もすれば集客は2～3割まで落ち込んでしまう。道の駅は入園料を取らない施設であり、1～2割の減少はあっても、ある程度安定した集客を見込める。その中でお客様を集客するキラーコンテンツを開発しなければならない。
- ・一般集客を図る上で重要なことは、地元の方が気軽に足を運べる施設であることであり、リピーターとして通っていただけるような場所にしたい。町外からの集客を図るためには、広告宣伝やイベントの開催などコストと労力がかかる部分が多い。地元の方の集客については、できるだけ利用しやすい環境の整備が重要である。
- ・産業・食部会では、当初、フードコートは4店舗のテナント形式を想定していたが、団体客への飲食の提供や他との差別化、トレンドに応じたメニュー変更などを鑑み、指定管理者の直営に方針転換した経過がある。遠軽の特産品を活用したメニュー提案が地域の活性化を図るためにも不可欠である。
- ・遠軽の特色を出すために、ブランドとなっている白滝じゃがの活用を考えている。目新しいマッシュポテトのメニューの検討や、実際に生産者からはじゃがいも本来の美味しさを味わっていただくメニューについてのアドバイスもいただいている。
- ・例えば、首都圏の女子高生の間ではしゃぶしゃぶの食べ放題のお店が流行っており、メニューにあるいももちにメイプルシロップをかけたり、サワークリームをかけたりして食べるのが人気だという。そういったアレンジを加えることによって見せ方が変わり、素材の持つ美味しさもアピールできるようなメニューを提案したい。
- ・フードコートではどの道の駅でも提供しているような定食や麺類などのメニューは提供せず、そういったメニューは町内の飲食店に誘導する形を考えており、情報発信の部分でも触れさせていただく。
- ・団体食としては、北海道らしくジンギスカンの提供を考えている。バケツ型のコンロや鉄器のジンギスカン鍋を使い、天気の良い日は2階のデッキで雄大な景色を眺めながら、食べていただきたい。
- ・体験部会では、体験プログラムについて協議を行い、4つの切り口から方針をまとめている。
- ・アクティビティについては、現段階ではジップラインとフォレストアドベンチャーを計画している。両方を備えた本格的な施設は本州には多くあるが、北海道内では恵庭市に4月にオープンする施設が初となるのではないかと。よって北海道初という部分は謳えないが、ジップラインの距離や内容で違いを出していければと考えている。
- ・それ以外に提案しているアクティビティについては、費用的な課題もあり、現段階での導入は難しい部分があるが、比較的安価なリスクの少ないものについては、導入を検討していきたい。
- ・体験部会の中で意見が多かったドッグランについては、近隣道の駅では全て無料で開放しており、同様に無料として検討している。トラブルの発生を考慮して、小型犬と大型犬でエリアを分けるように考えている。また、冬場のゲレンデに影響の無いような形で、柵の設置が可能かどうか精査していきたい。展望台については、リフトを使って上がっていただいた時に、それに見合うだけの価値がなけ



ればならないと考えるが、有料の望遠鏡の設置などを検討している。

- ・ 集客を図る上では、花の植栽を1つのコンテンツとして考えている。数年をかけて芝を整備された経過もあり、スキー場の運営に支障の無いような植栽を目指すとともに、食害にあわない毒を持った花としてスイセンやスズランが適していると考え。スズランは道内に15haの群生地があり、それ以上の規模にすることは難しく、スイセンであれば30万本が道内最大であり、5万株ずつ植えていけば3年毎に株分けができるので、5年後には35万株になり道内で最大規模のスイセン園にすることができる。また、球根は植え替える必要がないというメリットもあり、平成30年度に試験的に植栽し、生育状況を検証していきたい。
- ・ 群馬県のスキー場ではゲレンデにスイセンを植えて祭り期間中に10万人を集客している。短期間でそれだけの集客を図るためには花以外にないと考え。スイセンの開花時期は滝上町の芝桜や、湧別町のチューリップと同じ頃となり、相乗効果が図られる。植栽を始めてから認知されるまでに3年はかかると思うが、花回遊との連携により、団体集客を図ることができるのではないかと。
- ・ 自然体験や学習プログラムについては、前職で実際に取り組んだ中で人気の高いものを提案している。町内の関係各所に協力いただきながら、なりきりの職場体験を行いたい。道の駅には工房がなくても、町内にはいくつもあり、子ども達にパン作りやソーセージ作りなどを体験していただきたい。また、農産物の生産者にも協力をいただき収穫体験も取り入れながら、道の駅から町内を巻き込んだ形で、面として様々なプログラムを展開していきたい。
- ・ 飯盒炊爨についても、ポリタンクを使った給水で対応が可能であり、洗い物なども道の駅内の厨房の利用が可能である。これは特に学校等での利用が見込まれ部分であり、導入を図りたい。
- ・ 健康プログラムについては、高濃度炭酸泉の足湯を検討している。この足湯に浸かることにより、疲労回復の促進や血圧の低下などの効果が医学的に実証されている。特に、スキー場併設ということからも、スキーヤー等の利用も含めて、様々なメリットが考えられ、効果・効能の部分でもリピーターの確保につながる。
- ・ 健康に関連して、体に優しく美味しいメニューの提供や、ゲレンデを使った健康プログラムを組み合わせ、高濃度炭酸泉の足湯を含めた中での、リピート利用を図っていきたい。
- ・ 情報発信については、道の駅における必須事項であり、遠軽IC道の駅はオホーツクの玄関口としての情報発信が求められる。メインエントランスから入って左側の部分が主な情報発信スペースであり、大型ビジョンを3台設置し、町内及びオホーツク管内の情報を動画を交えて流していきたい。
- ・ 他の道の駅では、専任のコンシェルジュを配置しているところもあるが、ここでは専任の者を置くのではなく、タッチパネルの端末を設置して、それで観光やイベント、飲食などの情報を検索してもらう形を考えている。その情報については、各地の観光協会や商工会議所等のデータをベースとすることを想定している。また、スマートフォン等からQRコードを読み込むことで、個人の電子機器でも同じような検索ができるようなシステムも構築したいと考えている。他にも、飲食や物販においては、メニューの提案や商品情報について情報発信していきたい。そういったことからフードコートにもモニター、物販・直売スペースにもモニターやタブレット端末の設置を想定している。
- ・ 直売については、生産者の高齢化や商品の偏りなどから、通年での農産物の供給は難しいと考える。



その中で一部の生産者と相談させていただきながら作付け計画をすることにより、品ぞろえをしていきたい。納品と回収については、道の駅スタッフが生産者を回るということは、コストの面から現実的ではないが、販売する農産物にQRコードのついたラベルシールを貼り、それをスマートフォン等で読み込むことで生産者のホームページ等を見ることができるようになりたいと考える。

- ・一度食べてみて美味しいと感じても、なかなか遠軽までまた買いにはいけない方は、そのQRコードの情報から直接生産者に連絡していただいて、購入いただくようなシステムにしていきたい。また、自分で農産物を納品できない生産者についても、そういった情報発信を通して、お客様と生産者がやり取りできる形としていきたい。生産者の中に高齢でそういった対応ができないという方がいれば、道の駅が代行して手数料をいただくようなことも検討している。
- ・生産者の顔が見えるという直売所はたくさんあるが、そこから一步進んだ、店頭にあるだけではなく、そこから発展して継続的に取引できるような形を取っていきたい。また、物販商品についても、今後、地域を挙げて販売を強化していくにあたっては、QRコードを通してそこからより多くの情報を発信していきたい。
- ・最終的には、この道の駅に関わる全ての方が笑顔になれる道の駅を目指していきたい。

(座長代理)

- ・アクティビティ等、お金のかかるものとかからないものがあるが、基本的には導入したいものとして確認する。食材についてもやりたいことはわかるが、なかなか地元で理解されない部分もあると思うので、できない時にはどうするかを考えなければならない。健康については、最近注目されているところであり、ガンの予防に効く食材など、オホーツク管内でも無農薬の人参が引っ張りだこになっている話も聞いている。
- ・遠軽にはせっかく良いものがあるのに、PR不足な点があり、別な次元で皆様とも進めていきたい。

● 整備スケジュールについて【資料3】

(事務局説明)

- ・全体の整備スケジュール案について、これまでと大きな変更はない。建設については、平成30年度に実施する工事や設計委託等の予算について、先般の議会で議決されたところである。
- ・平成30年度からは本体施設と本体周辺の整備工事が始まり、それに先がけて古いロッジの解体や、それに伴う仮設事務所や仮設休憩所となるプレハブやトイレの借上げが発生する。平成31年度には、スキーシーズン中、休憩所や一部物置として使用したレストハウスを解体し、本体施設も完成に向けて進める中で、本体周辺の整備工事も残りの部分を進めていくような形となる。そして平成31年12月のスキーシーズンの営業開始に合わせて、プレオープンを予定している。
- ・スキー場については、平成30年度はスキー場の再開発という位置づけで、リフトの更新を中心とした、ナイター照明、ゲレンデの拡幅、展望台の設置、頂上トイレの設置、各種体験プログラムの導入に向けた総合的な設計委託を発注する。
- ・設計委託の結果にもよるが、現在のところ平成30年度から平成32年度の期間の中で、場合によっ



では平成30年度中に補正予算を計上して、2か年でのリフトの更新工事を行い、それ以外の照明等の整備も随時進めていくようなイメージであり、引き続き事務局及びフォーレストパーク、社会教育課など関連する機関と協議を進めていく。

- ・ 駅長については特段、変更はない。
- ・ 指定管理については、選定委員会の開催にあたって、前段、社会教育課や庁舎内の部課長等を含めた事前打合せを行っているところであり、公募によらない候補者の選定には、遠軽町公の施設に係る指定管理者の指定手続等に関する条例第3条に掲げる申請書類の提出が必要となる。
- ・ 現在、まとめの作業中であり、新規施設を当初から管理運営することでの人員配置やリフトの更新を含めたスキー場の再開発に関連する経費の算出など、現時点で施設全体の詳細が未確定の部分も多く、事業計画や収支計画を立てることが困難な状況である。そういったことから、ある程度概算で計画を作成するしかない部分もあり、給与体系なども含めて精査した上で大枠の計画を策定した後に、選定委員会を開催した中で指定管理者の選定を進めていく。
- ・ 裏面については、オープンに向けた詳細なスケジュール案となっている。委託・工事及び指定管理・駅長の部分は先ほどのおりであり、その他の流れを記載している。
- ・ 検討協議会は平成30年度、3回程度の開催を予定しており、各種懸案事項に合わせて随時開催させていただきよう考えている。
- ・ 部会については産業・食部会と体験部会は前回までに一区切りつけさせていただき、事務局を中心に進めた中で平成30年度中に経過報告という形で再度、参集いただくこととしており、情報発信部会は名称の募集やロゴマークの募集、イベントの開催に向けた会議の開催を随時予定している。
- ・ 管理運営方針・指針は、後ほど資料6で改めて説明するが、今回、人員配置や収支計画の部分は空欄とした中で素案を提案し、次回以降、改めて提案したいと考えている。
- ・ 道の駅登録については、平成31年度秋の登録に向けて、早い段階からの事務作業を想定している。

(座長代理)

- ・ 概ねこのようなスケジュールで進むということであるが、案ということで認識いただきたい。

● 実施設計図について【資料4】

(事務局説明)

- ・ 一般平面図について、これまでの図面と大きな変更はない。平成30年度は先ほど申し上げたスケジュールのとおり計画している。平成30年度の外構工事については、仮設事務所及び仮設休憩所に影響の無い箇所について整備を進め、主に駐車場の路盤や大型車庫までのアクセス通路の整備を予定している。平成31年度の外構工事については、仮設事務所及び仮設休憩所の部分の路盤及び全体の舗装工事を予定している。本体工事は平成30・31年度の2か年での施工を予定している。
- ・ 平面図についても、これまでの図面と大きな変更はないが、細かい部分の修正点について説明する。
- ・ 1階については、提供するメニューを想定した厨房機器類を図面に配置している。
- ・ エレベーター裏側に従業員の利用を想定する管理用トイレを配置している。



- ・事務室の間仕切りを変更し、前回より広くスペースを確保している。
- ・2階及び立面図については、変更はない。

● 道の駅名称の募集について【資料5】

(事務局説明)

- ・名称の募集については、2月に開催した情報発信部会で議論した内容となっている。
- ・道の駅名称募集・選考概要(案)の表については、募集方法は公募としその周知方法は町広報、町HP、各種SNS等、記載の媒体を考えている。流れとしては、6月広報でのチラシ折込等において町民の皆様へ周知を図り、7月上旬の締切後、8月までには選考を行い9月頃の公表を予定している。
- ・対象については、道の駅ができるということの全国的なPRを図るため「日本国内に在住の方」としている。提出形式は応募用紙とし応募方法は持参、郵便、FAX、電子メールの受付を考えている。
- ・選考者は遠軽IC道の駅検討協議会とし、選考方法は事務局及び情報発信部会で数件に絞り込んだ後に検討協議会で選考するように考えている。なお、公表方法は命名式の開催、町のHP、広報誌、新聞、各種報道機関等の掲載を想定している。
- ・採用者対応では、命名式への招待及び町の特産品や町内施設の各種サービス券などの特典を検討する。仮に、町外在住者が考案した名称が採用された場合は、命名式の参加に際して、旅費等の支給についても視野に入れたいと考える。また、応募作品の一切の権利等は遠軽町に帰属することとする。
- ・募集要項、応募用紙については、別紙チラシの案に記載し、表面には名称募集の概要、裏面に募集要項と応募用紙といった構成になっている。表面にはコンセプトや応募締切、道の駅の名称とは何か、施設全体の事業イメージとして考え方・飲食・物販直売・情報発信・スキー場・体験の項目ごとの概要を記載しており、これらを通して施設の名称のイメージを膨らませていただければと考えている。
- ・裏面には募集要項として、他の道の駅等の名称募集の要項なども参考にしながら作成したものとなっており、先ほど申し上げた応募資格や応募方法等の詳細事項を記載している。
- ・使用文字については、常用漢字、ひらがな、カタカナ、アルファベット、各種記号の使用が可能であり、応募締め切りは7月6日(金)に設定し、約5週間の期間を確保している。
- ・選考は遠軽IC道の駅検討協議会により決定することとし、9月頃には命名式の開催、町HP、町広報等での公表を予定している。
- ・その他として、応募はおひとり1点までとすること、応募作品を参考とし町が名称を考案することもあるということ、応募作品に加筆・修正する可能性があるということ、応募作品の一切の権利等は遠軽町に帰属すること、応募に係る費用の負担は応募者の負担とし応募用紙等の返却は行わないこと、個人情報については適正に管理し他の目的に使用しないこと、当募集要項に定めるもののほか必要な事項は遠軽IC道の駅検討協議会が決定することについて謳っている。
- ・道の駅名称応募用紙については、①道の駅の名称②ネーミングの理由③連絡先と3つの項目についての記入を求めている。
- ・①道の駅の名称では記入欄を2段にし、ふりがなと名称を分けており、漢字の当て字やアルファベット、記号などを使用する際にもわかりやすくしている。



- ・②ネーミングの理由は、その名称の由来や考案した経緯を記入いただく部分であり、選考の1つの目安とさせていただきます、公表する際には名称の意味合いを示す上での参考とさせていただきます。
- ・③連絡先は住所・氏名・電話番号・性別・年齢といった項目の記入を求めている。
- ・実際の選考にあたっては、まずは応募作品をひとつおとり事務局である地域拠点施設準備室でまとめ、情報発信部会において数件に絞った中で、検討協議会で最終決定したいと考えている。
- ・どれくらいの応募があるかなかなか読めない部分ではあるが、同一名称で複数の応募があったものを採用する場合の対応や、検討協議会での最終的な決め方についてもご意見いただきたい。

(座長代理)

- ・募集の概要についてはこのような形で良いと思うが、例えば商工会議所では標語を募集する際に小中高生向けにも周知した中で選考を行っており、道の駅名称の募集についても、マンガ的な要素も入れて子どもにもわかりやすいものを別途作成した中で、家族で考えられるような形で道の駅のPRを図っていただきたい。お金はそれほど掛からない部分かと思うので、検討いただきたい。

● 管理運営指針について【資料6】

(事務局説明)

- ・昨年6月に策定した「管理運営方針のまとめ」に基づき、平成29年度は各種協議を進めてきたが、その検討の経過を反映させるとともに、昨年11月の駅長候補者の就任以降、軌道修正を図った事項を含めて、より詳細な管理運営指針として提案するもの。
- ・基本的には「管理運営方針のまとめ」をベースに、必要に応じた修正・加筆をした形となっており、その箇所については朱書きで表現している。
- ・管理運営指針の主な内容としては、2P「1 これまでの主な経緯・経過」として、用地の取得処分や各種設計委託・工事、会議などの流れを説明している。3P「2 第2次遠軽町総合計画での遠軽IC道の駅の位置づけ」では、平成27年度に策定した第2次遠軽町総合計画における道の駅の考え方を記載している。
- ・4P「第1章 施設の理念」では施設整備における考え方を中心に記載している。
- ・以降、新規項目及び修正を加えながら、14Pからは1階と2階の各機能の概要や、18Pでは産業・食部会で検討した出店・出品料金等の表について、フードコートのテナント制から直営への移行や手数料等の精査など再検討した上で承認をいただいた事項について記載している。
- ・20P(5) 必要人員想定や(6) 収支想定については、現在、計画を作成中であるため、空欄となっている部分があり、今後、早急に詰めていくこととしている。
- ・22P以降、「第4章 各機能の特徴と主な業務」については、主に各部会での検討事項を中心に構成されている。23P(3) 直売・物販・食の提供の考え方では、主に産業・食部会で協議した事項が盛り込まれており、中段にはフードコートと物販・直売における、道の駅を中心とした生産者及び加工製造業者等との連携イメージを記載している。
- ・25Pからは、「2. ロッジ機能」として体験部会での協議事項を踏まえた様々な考え方を記載して



- いる。26P(2)ホール・レストスペース・軽食コーナーの考え方や、(3)体験プログラムの考え方として、施設で展開される体験を項目ごとにまとめるとともに、スキー場再開発の概要と配置イメージでは、平成30年度以降のリフトの更新工事を中心としたナイター照明、ゲレンデ拡張などのスキー場の再開発にあたっての考え方を図面を交えて記載している。
- ・28Pからは「3. 全体管理機能」として、主に情報発信部会で協議した内容について反映しており、(2)情報発信の考え方では①各種情報の発信内容や、②発信区分と主な発信ツール、③基本情報の発信など、基本的な情報発信の考え方を定めるとともに、④リアルタイム情報の発信ではインターネットやスマートフォンの普及を考慮した情報発信の展開、30Pからの⑤遠軽・オホーツクの情報発信及び⑥オホーツク管内地域連携イメージでは、オホーツクの玄関口として、遠軽・オホーツクの情報発信を行うにあたっての範囲や方法等について考え方を提示している。
 - ・⑦道の駅名称及びロゴマークの募集・選考では、先ほど説明した道の駅名称に加えて、ロゴマークの募集・選考の概要を記載しており、施設内の什器や壁、商品パッケージ、スタッフのユニホーム等に共通のマークをつけることで、ブランドイメージの向上や、施設全体の一体感の醸成が図られるものとして、本施設においても導入を図りたいと考えている。なお、ロゴマークについては、例えば東京オリンピックのロゴマークの選考で問題になったようなことを鑑み、応募のあった作品について、外部機関がデザイン及び商標登録・著作権などのチェックをすることも視野に入れながら進めていきたいと考えている。募集選考のスケジュールについては、名称の募集・選考に引き続く形となり、詳細は追って提案する。
 - ・31P(3)防災の考え方では、近年、オホーツクでは、風雪害による大規模な通行止めや、人が亡くなる事例も発生している中で、旭川・紋別自動車道及び国道333号は緊急輸送道路と位置づけられており、本施設は両道路に隣接するという立地特性から、災害時には緊急輸送における拠点となるとともに、一時的な避難場所としてのスペースを確保し、停電時に対応できる発電機や防災グッズを備蓄するなど、指定管理者、遠軽町及び関係機関が連携して、整備や計画づくりを行うように考えている。
 - ・その中で、③遠軽IC道の駅の防災計画や④「道の駅」における協働事業に関する協定、⑤災害時の対応と情報発信においては、災害時の対応について具体的な計画を記載している。本施設は、トイレや駐車場などの利用が24時間可能であるとともに、当面は高規格道路の末端となるICに隣接する施設であることから、災害時など高規格道路や国道が通行止めになる際には、各業種の運転手や一般利用者の一時避難場所となることが予想されるとともに、施設の対応としては、駐車場及び施設周辺の除雪、施設内への誘導、暖房の提供、トイレの提供、備蓄品の配給、携帯電話の充電、Wi-Fiの提供、概ね3日分の飲食物の備蓄及び提供などが考えられ、特に状況のリアルタイムの情報発信が求められる。32Pのイメージ図では大規模な通行止めを想定した情報発信と避難者の受入の流れを表しており、日常的に備蓄品を整備した中で、道路管理者や气象台、町からの情報発信を受けて、一時避難場所としての態勢を整えるとともに、主にSNSを使った情報の発信及び収集を計画している。
 - ・33Pでは主な備蓄品の案として、災害時に備え、想定される備蓄品をリストアップし、その保管先を含めた計画案としており、今後さらにその数量等について、総務部危機対策室や指定管理者と詰め



ていきたいと考えている。

- ・今回は未完成の状態であるが、このような形で検討していることを事前に提案させていただき、次回以降、完成版を提案したいと考えている。
- ・今回は細かいところまで説明しないが、委員の皆様には目を通した中で不明な点や修正点等があれば、随時、連絡いただきたい。

(座長代理)

- ・この指針については、指定管理を受けるにあたって作らなければならないものなのか。

(事務局)

- ・基本的には、この指針に基づいて指定管理を進めていただくような内容になっている。

(座長代理)

- ・あくまで計画ではあるが、指定管理をする上で、固定化されてしまわないかが心配である。

(事務局)

- ・完全にこの通りということではなく、この範囲の中で進めていただくための指針となっている。

(委員)

- ・これはたたき台という認識で良いか。

(事務局)

- ・そのように考えており、管理運営方針をより詳しくした指針として提案している。

(駅長候補者)

- ・事業計画は別途、私の方で作成しているところである。

(座長代理)

- ・管理運営指針と事業計画は整合性が取れていなければならない。細かいところは別として、金額や数字の面は注意願いたい。

(駅長候補者)

- ・考える会において変更した内容を網羅しているので、私の考え方に沿った形でまとめていきたいと考えている。

3. 閉会

(座長代理)

- ・次回、第15回会議はいつ頃を想定しているか。

(事務局)

- ・名称の選考のため8月頃の開催を予定しているが、その間に特別な案件があれば別途ご案内する。

(座長代理)

- ・それまでに何かあれば、随時、事務局まで連絡願いたい。



(配布資料)

- 資料1 遠軽町行政評価町民アンケート調査結果報告について
- 資料2 遠軽IC道の駅を考える会の経過について
- 資料3 遠軽IC道の駅整備スケジュール(案)
- 資料4 遠軽IC道の駅実施設計図
- 資料5 道の駅名称の募集について
- 資料6 遠軽IC道の駅管理運営指針(案)